

ほほえみ 第21号



今年も夏祭りの季節がやってまいりました。8月1日には当院もさんさ踊りに参加します。東北に住んでいるので、東北の夏祭りは一通り見ている良さそうなものですが、実際には「さんさ踊り」と「仙台七夕」以外には見たことがありません。ねぶたや竿灯は是非みたいとは思っているのですが、曜日のタイミングと「よし行くぞ」という気合がなければ、実現しないものです。

今年は、オリンピック・イヤーで、開催地がロンドンですので、時差の関係から寝不足になりそうです。ほほえみ読者の皆様におかれましては、暑さの厳しい折でもあり、体調を崩さないようにご自愛ください。

イギリス人気質

個人的なことです。医学部6年生の頃に一ヶ月間、イギリスのレスター大学で臨床修練をしていました。その当時は、医学部の学生時代に海外で臨床経験を積むことは非常に稀でした。現在では、その頃より遙に多くの医学部生が海外に出掛けるようになっています。〇〇年前のことですが、ロンドン五輪を機に、思い出しつつ書いています。

イギリスの医療制度は日本とは大幅に異なり、General Practitioner : GP (一般医、かかりつけ医)が、決められた地区の住民の健康管理を行い、GPの判断で総合病院や大学病院に紹介となります。イギリスの医学生は多くは、臨床研修を6年程度行い、最終的にはGPを目指す人が多いようでした。イギリスは典型的な階級社会ですが、GPの社会的な地位はかなり高いようです。研修も異なる病院を半年、一年で代わるが多く、その際には上級医の紹介状が非常に重要らしく、良い評価を勝ち取るため、早朝から深夜に至るまでハードワークをこなしています。

病棟は、新しい医学部といわれるレスター大学でも、医学部の前身は18世紀のものなので、古めかしい感じがすし、Named Ward (個人名を冠した病棟)があります。Fielding - Johnson に来るようになると言われるのですが、最初はかなり戸惑います。また、イングランド人の病棟回診での英語を聞き取るのは並大抵ではありません。普通の会話でも、イングランド人の英語は口籠もっていて、外国人には聞き取れないのですが、回診の時にはさらにトーンを落とすのですから。そして回診のスタート、途中と必ずティーになります。お茶→回診→お茶→回診→昼食→回診→お茶・・・これが延々続きます。

マナーの国なので、イギリス人と自負する人は特に、マナーは厳守しています。日本のように自動ドアは余りないのですが、ドアを通る人のためにドアを支えて待つのは基本です。Excuse me. (申し訳ありません) Sorry. (すいません) After you. (お先にどうぞ)、Welcome (どうぞ) 等に街中で聞こえるフレーズですね。そして、切符であろうと、レジであろうと、食堂であろうと列に並んで待つ。これがイギリス人です。一体、彼等の人生の中で、お茶と列に並ぶ時間が、どの位あるのやらといったところです。

私の行った頃には、ロンドンには、まだ木製のエスカレーターがありましたし、自動車も駅員がドアをバタン、バタンと閉めていました。近代化しない国なのですね。ロンドンの地下鉄にゾーン別の切符の自動販売機が出たところで、誰が考えたのかと思うくらい複雑な機械でした。日本人は自動販売機慣れしているのか、何とか理解できるのですが、日本人には全く操作不能のようで、この機械の前には列が出来ていないのでした。今は、どうなっているのでしょうか。流石に廃止されたか、改良されたでしょうね。ロンドンに出掛けた方がいらしたら教えてください。

個人的には、古き良きイギリス人気質が失われていないことを祈っています。



Leicester Royal Infirmary (レスター大学医学部附属病院)

後生畏る可し。 いくんぞ来者の今に如かざるを知らんや。

先日、盛岡第一高等学校様から、総合学習のため、生徒さんと面談の時間を取って欲しいとのお話があり、2名の生徒さんと面談いたしました。「職業を知る」「人を知る」という課題だそうです。典型的な医師なのかと言われると、ちょっと自信はないのですが、20年以上も医者をやっているのは事実なので、思いついたこととお話させていただきました。

自らを振り返ると、高校生の頃は、エンジニアや自然科学の研究者にはなりそうではないなあと感じていましたが(むしろ、文系で銀行員でもなるのかなと)、医師という職業の意義を改めて考え直す機会となりましたし、これから医師を目指す方々には、大いに期待しているところなので、大変貴重な時間となりました。まずは、良い本を沢山読んで、医学部合格を目指して頑張ってください。



勇美記念財団から、研究助成をいただけることになりました



昨年より、新渡戸稲造記念 がん哲学外来、メディカル・カフェを好評のうちに開催しておりますが、この度、がん哲学外来、メディカル・カフェの果たす役割を研究するため、勇美記念財団様から研究助成をいただくことになりました。

院内外の多くの方の支えにより、がん哲学外来、メディカル・カフェが実現にこぎ付けた訳ですが、今後は一層、内容を充実させ、国内でもトップ・クラスのものにしたいと考えておりますので、益々のご協力、ご理解をいただければと、関係者一同、お願い申し上げます。

メロンの実がなりました

家庭菜園シリーズの、その後ですが、先日、畑を覗いたら小さいメロンの実が出来ていました。まだ収穫には早いようですが、コロコロと幾つもできていたので、驚きました。カラスが来ないか心配です。

種から育てたトウモロコシも、ぐんぐん大きくなってきており、あまり期待していなかった家庭菜園でしたが、今のところ、ビギナーズ・ラックで、大きなトラブルもなく、作物が育っています。



MEMO

8月のがん化学療法科の予定

8月1日－4日 さんさ踊り(当院は1日に参加します)
8月10日 柴田教授外来
8月20日－24日 福田不在
8月24日 新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ
8月27日－31日 加藤不在

9月1日 岩手県立病院総合学会 市民公開講座
新渡戸稲造外来時代の到来 樋野興夫先生
13時から、マリオス1F 大ホールにて。
是非、ご参加ください(入場無料)。

9月～11月の間、福田医師の外来日が変更になります。ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い申し上げます。



若かりし頃の、
新渡戸稲造、宮部金吾、内村鑑三

新渡戸稲造の誕生日は、
9月1日で、今度の9月が
丁度、生誕150年です。

